

令和元年度 社会福祉法人 高岡市身体障害者福祉会 事業報告

<法人全体>

- ・当法人は、「利用者の尊厳と地域社会との共生・連携の思想を基本理念とし、公平で公正な法人経営に務める。」とともに、地域福祉(高岡福祉圏)の充実発展に寄与してきた。
- ・職員の働きやすい環境整備として、福祉機器を積極的に導入し、身体的介護負担の軽減を図り、産業医と連携しストレスチェックを実施することで職員の心のケアにも努めている。経営組織のガバナンスを強化し、経営資料の公開や機関誌の発行に留まらず、ブログで施設内の行事や出来事を発信している。
- ・「利用者や働く職員から選ばれる」法人を目指し、利用者の処遇改善と職員の待遇改善を進めている。
- ・法人ホームページのリニューアルを行い、令和2年4月より運用を開始する。
- ・高岡市社会福祉法人連絡協議会に加入し、市内の社会福祉法人と連携し社会貢献事業に取り組む。当法人は令和2年1月16日(木)にイオン高岡(江尻店)2階『ねま〜る茶屋』の担当をして、法人概要の説明・車椅子体験やスポーツウエルネス吹矢を行い、沢山の地域の方と交流を深めた。
- ・富山県災害福祉広域支援ネットワークが立ち上がり、社会福祉法人等の団体から選出・登録された職員が研修を受け万一の災害に備える事となる。当法人も参加し協力を行っていく。
- ・法人各事業所の積極的な感染症対策。

社会福祉事業

<本部拠点区分>

- ・養護老人ホーム 志貴野長生寮の事業開始(平成31年4月1日)
- ・令和元年度事業報告・決算の承認
- ・社会福祉充実計画の実施
- ・組織規程の一部改正・就業規則の一部改正・経理規定の一部改正・職員給与規定の一部改正
- ・志貴野苑・志貴野ホーム・特養 志貴野長生寮・養護 志貴野長生寮の所長の選任

<志貴野苑拠点区分>

①志貴野苑入所施設部門

- ・職員は、5月に生活支援員1名を採用し、充足している。
- ・入所利用者は、7月に志貴野苑B型利用者が一人入所に切替わり33名定員のところ満床となるが、12月に1名死去により年度末は32名であった。また、元年11月より、障害サービスの対象とならない方の利用を1名受け入れている（日中活動のみ）。
- ・入所利用者の高齢化や重度化の増加に伴い、令和元年12月中旬より『ゆとりタイム』を設け、15時で作業終了も選べるようにしている。（作業は、16:30終了）

②志貴野苑B型就労部門

- ・入退所者状況は、7月より2名が利用を開始したが、7月に2名が退所した。退所後の行先は、1名は志貴野苑入所、1名はA型への移行である。令和2年2月にA型事業所を退所した1名が利用開始をされ19名である。

③施設整備

- ・5月20日(月)B型就労作業室のエアコンを更新。
- ・6月24日(月)冷房設備(チラー)を更新。
- ・8月20日(火)食堂・居室一部ファンコイルを更新。
- ・9月30日(火)食器洗浄機を更新。
- ・10月10日(木)加工検査科作業室内壁のひび割れ修繕。
- ・11月7日(木)高電圧設備等の更新工事を完了。

④その他

- ・5月30日(木)西原物産株式会社様より現金20万円の寄贈があり、印刷科の編集用パソコン1台を購入する。
- ・8月22日(木)にポップサーカス富山公演事務局より招待があり、利用者・職員59名が観覧をする。
- ・11月7日(木)に社会見学として、新潟県上越市の上越市水族博物館を日帰り旅行を行い、利用者・職員60名が参加する。

⑤苦情解決報告

- ・令和元年7月に、利用者より館内喫煙に関する内容で1件あり、玄関横の屋外に喫煙所を設置し館内を全面禁煙にして解決に至る。

<志貴野ホーム拠点区分>

①志貴野ホーム入所施設部門

- ・職員採用は、生活支援員2名・看護師2名・事務員1名であり、令和2年

4月に新卒者2名を含む3名が入職。但し、3月末日に生活支援員3名が退職。

- ・入所利用者は高齢化・重度化が進み入退院が増えている。病院への長期入院2名、死亡による退所3名であり、年度末は52名定員のところ51名であった。
- ・短期入所は、家族のレスパイトの役割として障害者福祉センターの利用者を中心に、職員のマンパワーや利用者の障害程度を考慮し、一日2～3名に調整して受け入れを行っている。

②障害者福祉センター（通所生活介護）部門

- ・利用者が対前年比2名/日減少した。志貴野ホームへの入所と長期入院、介護保険サービスへ移行したため。ただ、3月より1名が週1日から2日利用に、4月より支援学校卒業者が週2日で利用。
- ・重度化に伴い障害支援区分が上がっているが、職員配置を1:2と手厚くして対応している。このことにより短期入所の希望が増え入所へと繋がっている。

③高岡市志貴野身体障害者相談支援センター

- ・今年度は、介護保険に何名か移行された方がいるため、新規サービス利用計画作成が可能な時もあるが、月によってはモニタリング・サービス利用計画作成者が多く対応が難しく、また病院・地域連携室より退院を迎えるにあたり障害サービスの情報などを得るために電話が掛かり連絡調整の対応に追われる事も多い。

④設備整備

- ・6月8日(土)志貴野ホームの受電設備の更新。
- ・9月4日(水)手動ベッド6台を低床タイプの電動ベッドに更新。

⑤苦情解決報告

- ・令和元年度は、苦情や要望の申し出はありませんでした。
これからも利用者の皆さんが、気軽に話せる環境づくりや、安全にまた安心してご利用していただけるよう努めてまいります。

<特別養護老人ホーム 志貴野長生寮拠点区分>

① 特別養護老人ホーム

- ・昨年度は6人の正規介護職員(うち1人は9月30日付で退職)、3人の非常勤介護職員を新規雇用し、基準以上に職員配置しているが、利用者の要介護度が重度化しており人手の充足感はない。
- ・入退所の状況は、昨年度4月～3月末で28人の入所、26人の退所があり、入院者と合わせると、平均2～3床の空床がある状態(令和2年3月末時

点の平均入所利用人数 77.69 人/日) で実稼働率に影響を及ぼしている。
(令和 2 年 3 月末時点の期間実稼働率 : 97.12%)

② 短期入所

- ・昨年度 4 月～3 月末まで 1 日平均 3.98 人の利用があり、稼働率は約 8 割で概ね安定している。最近の傾向は、特養入所を見込んだ長期的な利用が増えている。ただ、長期に渡り利用されるので、新規利用者の受け入れが難しい面がある。

③ 地域密着型通所介護

- ・定員規模 1 日 15 名のところ令和 2 年 3 月末時点で平均 7.34 人となっており、平成 30 年度 (8.38 人/日) より減っている。
- ・令和 2 年 3 月末時点の利用登録者 23 人のうち、隣接の養護老人ホームの方が 16 人と 7 割近くを占めている。
- ・在宅の利用者は、入院に伴う利用休止や週の利用日数が少なく、稼働率の向上につながっていない。

④ 居宅介護支援事業

- ・勤務する居宅介護支援専門員の病休に伴い、6 月 1 日から 8 月 31 日まで一旦事業を休止し、受け持っていた契約者について、他事業所に引き受けを依頼していたが、9 月 1 日より再開した。令和 2 年 3 月末時点の契約者数は 38 人で、休止前と同人数まで回復することができた。
- ・居宅介護支援事業所は 1 人体制で実施してきたが、令和 2 年度からは 2 名体制で行う予定。

⑤ 設備整備

- ・令和元年 5 月～6 月 館内照明 LED 化工事 (株式会社開進堂)
- ・令和元年 12 月 18 日 ロータリー除雪機更新 (株式会社北陸近畿クボタ)
- ・令和元年 12 月 19 日 厨房内食器洗浄機および付属設備一式更新 (公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団助成事業)

<養護老人ホーム 志貴野長生寮拠点区分>

① 養護老人ホーム

- ・昨年度より高岡市長生寮の民営化を引き受けて事業運営を開始した。
- ・職員数は、特養との兼務職員 4 人を含めて 35 人 (うち、生活支援員 22 人) で、加えて高岡市からの出向職員が 5 人 (生活相談員 1 人、生活支援員 4 人) という体制でスタートする。
- ・入所定員を 130 人から 100 人に縮小したが、実際の入所者数は、高岡市との申し合わせにより 80 人前後で推移しており、定員縮小による影響はない。

- ・入退所の状況は、昨年度 4 月～3 月末で 9 人の入所、9 人の退所があった。
- ・事業開始前の 1 月から順次職員の研修を積んでいたこともあり、平成 31 年 4 月 1 日からの市職員退任に伴う環境変化の入所者への影響は殆どなく、新規採用した職員も前職の経験などを生かして入所者と良好な関係作りができています。
- ・高岡市長生寮時代に実施していた行事やクラブ活動については、昨年度はすべて踏襲して実施でき、入所者の生活面での不安を軽減する要素となったと考えられる。
- ・入所者の重度化が年々進行しており、本来身辺自立していることが要件であるが、要介護認定を受けている利用者が 40 人前後という状況が常態化している。特養と協議しながら、要介護 3 以上の入所者の特養入所申し込み及び移行の促進を図っている。
- ・常時入院者が 7 人前後おり、その分収入減となり事業運営が非常に厳しい状況である。養護老人ホームに戻ることが事実上無理な病状の利用者の措置解除および新規の入所措置を円滑に進めてもらえるよう行政に働きかけていきたい。

②ミドルステイ

- ・緊急的なミドルステイのベッド数は 4 床だが、昨年度は時期によって最大 6 人の利用があり、昨年度 4 月～3 月の平均は 4.15 人であった。ミドルステイ措置後、高岡市で適性を見極めて入所の措置に切り替わっているケースが多く見られた。

③設備整備

- ・令和元年 12 月 18 日 ロータリー除雪機を更新した。(株式会社北陸近畿クボタ)